

策定の趣旨

- 吹田市では、北大阪健康医療都市における健康・医療のまちづくりの動きを踏まえ、更に加速化させるべく、今後、緑のふれあい交流創生ゾーン2の土地（東側約4,000㎡）において高齢者向けウェルネス住宅を整備※。
- 当該住宅に求められる機能等を明確にするため、整備方針を策定。

※50年間の一般定期借地契約により民間事業者が整備、維持管理・運営を行うことを予定。

基本的な考え方・特徴

- **当該住宅に居住する全ての人**が、**できる限り健康の保持・増進に努め、生きがいを持ち、自分らしく、安心安全で豊かな生活を送ることができる**という基本的な考え方をプラットフォームに据え、**3つの特徴を持つ住宅環境のモデルケースとして、その整備を目指す。**

特徴①：生活習慣病予防や介護予防を特に意識したウェルネス機能

- 自立層から要介護者まで、様々なライフスタイル・状態像の者が、健やかに安心して暮らせる住宅環境の整備を行う。
- 住宅機能については、国立循環器病研究センター等の医学的知見等を得ながら、
 - ・ 生活習慣病予防、介護予防の観点を重視した建物内施設・設備の導入を推進するとともに、
 - ・ 様々なサービス提供や支援を組み合わせることによって、より効果的に日常生活の中で健康寿命の延伸の実践等を図ることができる環境の形成を目指す。

特徴②：地域包括ケアシステム機能（医療・介護の連携した提供等）

- 多様なサービス事業所を配置し、当該住宅の居住者（※1）に対し、通い・訪問・泊まりといった様々なサービス形態により、介護を中心に看護や予防、薬剤管理といった様々なサービスを、オーダーメイドで組み合わせる等、居住者の自立を支援し、社会参加につながるようなサービスの提供（※2）を目指す。
- （※1） 事業所によるサービス提供は、当該住宅のみならず、周辺地域に対しても積極的に行い、地域のサービス拠点となるものとする。
- （※2） 住宅の見守り機能や、事業所を中心としたサービス提供により、独居や認知症にも対応することを目指す。

特徴③：北大阪健康医療都市内外の関係機関等との連携による付加価値機能

- 国立循環器病研究センターをはじめとする北大阪健康医療都市の各事業主体との円滑な連携を模索し、健都2街区高齢者向けウェルネス住宅はもとより、まち全体の付加価値を高める機能の導入を目指す。